

BPW Newsletter JAPAN

Official Newsletter of National Federation of Business and Professional Women's Clubs of JAPAN



2013.1.1
Vol.107

2012年特定非営利活動法人
日本BPW連会
新年号

CONTENTS

- 理事長年頭の挨拶
日本BPW連会理事長 松原敏美
- BPWアジア・太平洋地域会議
参加報告
連合会国際委員長 平松昌子
- 東日本大震災被災者支援記録
『3.11 女たちが走った
女性からはじまる復興への道』
- 東日本大震災復興支援事業
第3回支援事業所募集
- ロシア・ネヴァクラブ
誕生15周年記念集会参加報告
連合会財務委員長 藤田ひろみ

日本BPW連合会ニュースレター

発行人：松原敏美
編集：広報委員会

日本BPW連合会 事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木
2-21-11 婦選会館 303
TEL.03-5304-7874
FAX.03-5304-7876

E-mail: office@bpw-japan.jp
ホームページ:

<http://www.bpw-japan.jp>

年頭のごあいさつ

特定非営利活動法人日本BPW連合会理事長 松原 敏美

新年明けましておめでとうございます。

政権が年末に交代し、混乱のうちに2013年が明けました。たとえ第1党がどこになろうとも、日本の10年後、20年後を見据えて、今変えなければならぬ課題は、同じはずです。

日本BPW連合会は、今年も変わらず、意欲ある女性の活躍の場を広げるために、実践的な活動を行っていききたいと思います。



1. WEPs(女性のエンパワーメント原則)の普及活動

そもそもこの活動は、国連のグローバルコンパクト事務局が進めているものですが、BPWインターナショナルもこれが統一テーマ「女性の力がビジネスをリードする」に合致した運動であるため、世界各国のBPWに対して、積極的にこの推進に関わり、それを手段にして、女性がビジネスの分野で活躍できる状況を発展させるよう求めています。WEPsの署名をすることで、女性の活躍に積極的に取り組む企業の姿勢を公表し、そのことによって企業の社会的な評価を上げ、報告義務を果たすことで、自らを省みて、更なる改善点を発見することに繋がります。そうすると、企業の業績が上がると思いますが、と呼びかける運動です。

平成24年12月1日から台北で開かれたアジア太平洋地域会合においても、そのことが強く確認されました。ビジネスの分野で女性が活躍することは、自然、安全、快適、をより正直に、そして真面目に追求する傾向をもたらし、人として調和のとれた生活を実現することに寄与する効果が期待できるとのことでした。

2. 第3号被保険者問題とイコール・ペイ・デイ運動

2055年には、高齢者1人を15才から64才の国民1.3人(男女)で支えなければならない時代が来ると予測されています。世帯単位ではなく、個人単位で対策を考えなければならないことは明らかです。第3号被保険者の制度をできるだけ早期に撤廃するように求めることもその現れです。

また、同一価値労働、同一賃金の確保をして、女性のやる気を引き出すために、今年はイコール・ペイ・デイ運動を本格的に実施して頂きます。2月に厚労省から賃金に関する数値が発表された直後に、本年のその日を各理事宛に送信しますので、少しのユーモアを交えながら、全国各地でおしゃれに実施して下さいことを期待しています。

3. 女の仕事づくり第3次震災支援事業

ビジネスで女性が元気になることで、被災地の活性化に寄与することが目的です。正に「女から始まる復興への道」です。また『3.11 女たちが走った』を、1人でも多くの人に読んで頂く運動を継続します。

これらのことも含めて、息の長い「災害と男女共同参画」との関わりを続けたいと思っています。

4. ネットワークづくり

(JWLIフェロー、CSWインターン、ヤングスピーチコンテスト参加者など)

近年これらの企画に参加して下さる方々の、すばらしい才能に学ばせて頂くことが多々あります。逆に、私達は若い女性を育てるために、役に立つ情報を伝えたいと思っています。互いの交流の機会を増やすことによって、私達の考えや経験や人脈が、少しでも若い世代の助けになれるよう企画を考えたいと思っています。

本年もどうかよろしくお願ひ致します。

BPW アジア・太平洋地域会議
2012 年 12 月 1 日～3 日
台北 / 台湾

国際委員長 平松 昌子

3 年毎に、 kongress の合間に開催される地域会合、BPW アジア太平洋地域会議、今回は 2012 年 12 月 1 日-3 日の日程で台北のグランドホテル(圓山大飯店)を会場に開催された。



参加者の熱気、会場の設営など、アジアの元気を象徴する

ような会合であったように思う。日本からは 21 名が参加。韓国はこれを上回るメンバーを送り込んできたが、2014 年の kongress 開催国だから、当然かもしれない。練習を重ねたらしい立派なエンターテイメントも用意してきていた。

これまで何度か地域会議には参加しているが今回は格別だった。何よりも呂秀蓮会長の踏ん張りが凄かった。元副総統としての威厳をかけて、そして台湾の力を世界にアピールするために、相当な予算で執行了と思う。協賛企業名がずらりと並んでいた。拠出金を出したスポンサーの他に土産や飲み物それに晩餐会でのワイン、資料入れのバッグ、移動の車両の提供などがそのリストにあった。こうした資金があつて出来たことなのか、招待者の豪華さが目に付いた。まず、現会長のフリーダ・ミルキリスは勿論、リビア・リッチ以降の会長パット・ハリソン、アントワネット・ルーゲ、チョンシャノック・ピラバン、エリザベス・ベンナム、そしてちょっとさかのぼってツェリキ・ユーセラらが顔を揃えた。また、リージョナル・コーディネーターでは、スーザン・ジョーンズ(アジア太平洋地区)は当然として、EU からも参加した。この他国連関係、経営者などを各地から招いている。

さらに彼女等を集めるだけではなく、それぞれに発言の機会を提供していたが、初参加の会員にとって、BPW がどんな組織であるかを理解させる場になったと思う。

事前に届いたプログラムを見たとき、スピーチは立派だけれど、「地域内の他国がどのような問題を抱えているか、情報を交換し今後を考える場が必要ではないか」と、スーザン(アジア太平洋地域コーディネーター)に申し入れておいた。そうした経緯もあつ

て 3 日間のプログラムは以下の通りとなった。

- [12 月 1 日]
- 午後 開会式・基調講演・BPW 指導者についての学習
 - 夜 観光と食事の夕べ
(会長は台北 101 で食事・意見交換会)
- [12 月 2 日]
- 午前 パネル①女性の事業力強化
BPW の活動について
 - 午後 パネル②女性の経済力(She-Economy)強化
BPW の活動について
パネル③グリーン・エコノミー
 - 夜 晩餐会
- [12 月 3 日]
- 午前 ツイニング調印式
【日本】・京都&台北Ⅱ ・大阪&桃園
【他国】・台北Ⅲ&ソウル・大高雄&仁川
 - 昼 お別れ食事会
 - 午後 市内見学



BPW の活動について

- ①各国の活動報告 (10 分以内)
 - ②次期 kongress に推薦するリージョナル・コーディネーターの選出、
 - ③地域内予算について、を議題とした。
- ※①については日本として以下の 3 項目を報告
- ・東日本大震災に伴う活動 (記録集の出版)
 - ・WEPs を巡る活動
 - ・イコールペイデー・キャンペーンの実施
- ②次期コーディネーター候補に日本から黒崎伸子前会長を推薦。他に対立候補は無かったが、まだ期間がありすぎるとして kongress の役員立候補締め切り前に再度検討することで決着。
- ③地域予算については、先の kongress で地域会費として @ 1 ユーロの徴集が決まったが、今回はその値上げ案である。これに対して支出項目が見えない中での会費値上げは無理として、後日予算案と共に各国 BPW にメールで連絡することに。又議事の討議に電磁的方法の導入も承認された。

書籍出版！ 2012.10 発売（ドメス出版）

日本 BPW 連合会東日本大震災被害者支援の記録
『3.11 女たちが走った
—女性からはじまる復興への道』に思うこと

編集委員長 平松昌子

「働く女性たちのために活動する」ことを掲げている BPW として、大震災という緊急時が発生したとき、何をし、何が出来るかを問われたのが今回の東日本大震災だった。

メディアは現地の混乱を伝えるが、現地へのアクセスも救援のための組織も、十分な知識もない女性団体は何をすべきなのか。

そんな課題を突きつけられながら、手探りで始めた活動。一つずつ手を打つ中で私たちが見つけたものは何か。その記録を記憶が確かなうちに残し、BPW の財産にしておくために、記録本の編纂を決めた。

出版社をあれこれ探す余裕はない。兼ねてから女性問題の出版を手がけているドメス出版の編集長にご相談したら喜んで引き受けてくださった。そこには 600 冊の買い取りという条件が付いたが、「1 人でも多くの人に、特に女性たちに読んでもらうことを BPW 会員の震災被災者への協力の証としよう」という覚悟で 1500 部が印刷された。

「1 人でも多くの読者を！」すでに私たちの輪は 1000 人になる。色々読後感も頂戴した。

私たちが何度かお願いに伺った内閣府男女共同参画局長の岡島敦子さんは現職を離れておられますが、「・・・お一人お一人の思いやご苦勞に改めて頭の下がる思いがすると共に『女の底力』とでもいうものを感じ、誇りに思います」。ある方は賀状に添えてくださいました。「感動しました」と。

この本は日本図書館協議会推薦図書にも選定されています。Web にも内容紹介が掲載されています。

なお、台北でアジア太平洋地域会議が開催された際、日本の活動報告を行った際に壇上から、台湾の呂会長とエリザベス前インターナショナル会長にお渡ししました。何とか英語版をつくる必要があるのではとったりしています。

.....地震が発生したとき、メンバーの女性たちが何を考え、どう行動したかについて、宮城県など東北のほか首都圏や北海道、九州など全国 43 人が報告している。

仙台市のメンバーたちは、徒歩で 3 時間かけて家までたどりついた体験や、家族と連絡が取れず不安な一夜を過ごした体験などを記した。



河北新報に写真付で紹介記事掲載

◇長崎新聞・東京の FM ラジオ J-WAVE でも紹介されました。

◇感想のメールを頂きました。ありがとうございました。

まだ精読はできていませんが、会員の皆様からの各地域での震災体験報告はじめ、メールによるメンバー相互の情報交換の詳細、その後の中長期にわたる支援の実践が収録された、たいへん示唆に富んだ一冊と感嘆しております。これまで震災について膨大な報道がなされ、言葉が尽くされてきましたが、それらは必然的に、送り手によって恣意的に選別され、加工もされたものでした。『3.11 女たちが走った...』では、BPW という共通の意思をもつ集団を軸として生の証言で綴られていることで、ばらばらの個人体験でもなく、上からの概念論でもなく、リアルな震災の実相と今後の社会への問いかけが共有できると思います。切迫した限られた条件の中で行動された会員の皆様に深い敬意を捧げるとともに、編纂にあられた編集委員の皆様にご心より御礼申し上げます。札幌クラブメンバーより

◇その他にもブログやサイトで紹介して頂きました

東日本大震災復興支援事業

「女たちの、女たちによる仕事づくり」《第 3 回》

連合会副理事長 棚田 美津子

2011 年 3 月 11 日東日本大震災から 1 年 10 か月が経ちました。その後も余震や予想外の天候の不順で被災した皆さんの心も体も まだまだ癒される日の遠いことを報道で知る事が出来ます。

BPW 支援事業の第 1 回第・2 回支援 5 団体のその後の状況は、9 月の段階で報告を受けましたが皆さん懸命に雇用の場を作り、前進し頑張っています。

おかげさまでこの度、第 3 回目の募集をする事が出来ました。なお、今回はヤング BPWI からの義援金も活用させて頂くため、1 件については、若い方の雇用に重視したいと思います。

11 月に被災地の自治体、又 NPO 法人、仙台で行われた日本女性会議でその広報を行い、12 月 15 日の締め切りまでに 9 件の応募がありました。

贈呈できるのは 3 件ですので、募集要項に沿った内容かどうかの聞き取りなど、可能な限り訪問調査を行い、決定機関である執行委員会が公正な選考ができるように詳細情報を提出したいと思います。

2 月 3 日の執行委員会で決定後、2 月 24 日仙台市で贈呈式を行います。

北は旭川クラブから南は長崎クラブまで、さらに世界中の BPW 会員の皆様が復興を祈って下さっていることをしみじみと感じ感謝しています。

<事業内容>

3 月 11 日東日本大震災において震災被害を受けた事業所で、企業再建・再稼働しようとしている事業所、もしくは勤務していた企業が震災被害のため解散・倒産・解雇となったため、新たに起業する団体で、何れも女性の雇用の場の創出を目的とする事業所・団体に対し支援金として助成する。

支援要件詳細及び第 1 回・第 2 回の支援事業所については、<http://www.bpw-japan.jp/japanese/shien> 参照下さい。

<Topic 1>

JWLIフェローシップ事業
(Japanese Women's Leadership Initiative)
2012年度研修生報告会
11月10日(土)14:00~
JWLI同窓会が東京ウィメンズブ
ラザフォーラムに参加して行い
ました。

<Topic 2>

臨時理事会開催
日時：2012年2月23日13:00~
場所：八重洲ホール611会議室

<Topic 3>

第3回復興支援事業
支援金贈呈式
日時：2013年2月24日13:00~
場所：ソララガーデンオフィス
仙台駅前
第1回・第2回受賞団体の方々にも
出席して頂きます。皆さんで
激励しましょう。

日本BPW連合会は今後も復興支
援を続けていきます。皆様のご
協力をお願いいたします。

「女たちの、女たちによる仕事づくり」
復興支援金

- 郵便局からのお振込の場合
記号 10080
番号 32423911
口座名 トクヒニホンビーピー
ダブルレンゴウカイ
- 銀行からのお振込の場合
ゆうちょ銀行
店名 ○○八(ゼロゼロハチ)
店番 008
普通預金
口座番号 3242391
口座名 トクヒニホンビーピー
ダブルレンゴウカイ

編集後記

こんなに降らなくても・・・と思う
くらいの豪雪。不自由さに耐えて
おられる被災地の方たちには、今
冬の天候はあまりにも無情です。
私たちは、もう十分に自然の脅威
を思い知りました。それでもまだ
足りないのでしょうか？
そんな想いを抱きながらの編集
作業でした。みなさま、どうかお
体をお労り下さい。(塩崎智子)

ロシアBPWネヴァクラブ誕生 15周年記念集会
サンクトペテルブルク

2012年9月15日



財務委員長 藤田ひろみ

ネヴァクラブより 15周年記念集会のお誘いを受け、急きょ各クラブ
から参加者を募り、松原理事長を団長に総勢 11名の訪問団で、かの地
サンクトペテルブルグに向かいました。

渡航前ロシアの情報は不明でしたが、「現地で円は両替できるの？」
「治安は？」という不安はなんのその、サンクトペテルブルグの街には
多くの外国人があふれ、食べ物はおいしく、街は安全で、加えてロシア
の人たちはとても親日的でありました。さすが世界遺産の街。

初日はネヴァ川クルーズです。船ではネヴァクラブ会員の手作り&ケ
イタリングでおもてなし。ここで、参加のスイスの2クラブと日本、ネ
ヴァの4クラブが顔を合わせ、それぞれのプレゼントを交換しました。



翌日はネヴァクラブ 15周年記念集会本番です。スイ
スの2クラブはBPWではネヴァクラブのシスタークラブ
とのこと。記念集会は、ネヴァクラブ会長・ナタリアの
挨拶で始まり、同氏の基調講演、続いて現地のボランテ
ィア団体の報告、スイス・ダヴォスクラブ、スイス・ホ
ールクラブ、そして日本BPW連合会から、それぞれの活
動とその問題点、各国におけるNGOの役割、などが報告
されました(日本は和歌山クラブ：塩崎広報委員長補佐が発表)。

ロシアではNPOの活動やジェンダー問題は以前よりも改善されてい
るが、まだ成功しているとは言えないこと、スイスでは政府とクラブと
の協調ができていていること、日本では2つの大きな震災でNPOの存在が認
知されたこと、などに関心が集まりました。

記念集会後の昼食会ではすっかり仲良くなりました。
夜には舞踏会。全員ドレスを着て(決して仮装パーティ
ではありません)宮廷ダンスを楽しみました。私たちに
は初めての経験(多分初めてで最後!)でした。



翌日からは世界遺産サンクトペテルブルグの名所巡
り。北の地ではめずらしく晴天にも恵まれ、再び訪れることがあるだろ
うか、という美しすぎるこの地を満喫し、ロシア人の温かいもてなしに
感激しました。夢のような1週間。ほんとうに素晴らし体験でした。

最後に、企画と旅行社の手配に尽力頂いた鶴田さん(長崎クラブ)、
発表という大役をはたして下さった塩崎さん(和歌山クラブ)、また、
出発前から色々ご協力下さったみなさまに感謝いたします。

